

第1回 WePROフォーラム 国際女性デー記念

フォーラム詳細は「さんデジ」へ!

女性を選び、戻りたくなるまち岡山に。

「女性を選び、戻りたくなるまち・岡山に」をテーマに、第1回WePROフォーラムが3月9日、開かれました。基調講演やセッションなどを通し、話し合われたのは女性に選ばれる地域とはどんな姿かということでした。参加者は約160人。参加者同士によるグループ対話も行われ、会場は「岡山を変えていきたい」という熱気に包まれました。女性や若者に選ばれる地域を目指す「岡山たいようプロジェクト」のスタートにあたり、フォーラムの様子を紹介します。



Check!

基調講演

「五つの“壁”連携して取り組みを」

小安美和さん

株式会社Will Lab代表取締役／内閣府男女共同参画推進連携会議有識者議員

地方から女性が出出する要因はさまざまですが、一つに男女の違いで生じる格差「ジェンダーギャップ」があります。「世界経済フォーラム」が社会の中で男女が平等か調べて毎年発表していますが、2024年の日本は世界146개국中118位、引き下けているのは政治、経済です。経済分野で男女の格差の構造的な要因として挙げたいのは、女性自身、職場、保育・介護などケアサービス、家庭、社会規範の五つです。性別役割分担意識、アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)は人々の意識に深く根付き、家事、育児を完璧にしたいと思っている女性は多く、五つの“壁”に対し、包括的に取り組む必要があります。やっていただきたいのは、「地方はできない」などの「決めつけ」から脱却し、地域の企業が連携して職場の男女格差を是正し、市町村や事業所レベルでデータによる男女格差の実態を把握することで、取り組みを進めるためには、地方自治体のリーダーがメッセージを発信し、産官学や金融機関、報道機関が連携することが重要です。



伊原木隆太さん

岡山県知事

「変化をみんなで巻き起こす」

岡山県から女性や若者の流出が止まらないという現実を受け止めた上で、どう改善していくのか。これさえあればというものはないので、さまざまな観点の取り組みが必要です。行政だけでなく企業など多様な主体が連携し、社会全体で向き合うことが重要です。例えば、子育てと仕事が両立できる、働きやすい環境を整えるなど、女性や若者が戻ってくるための変化をみんなで巻き起こすことができる地域にしていきたいと思っています。

参加者の声

(アンケートから)

仕事をする上で疑問に思うのは、男性への期待度の高さと、期待に応えられない時の寛容性の低さ。企業経営者には、挑戦して失敗しても個々人が毅然としていられる職場づくりを望みたい。(40代男性・会社員)

職場で女性ゆえに受けた理不尽な扱いは書き切れないほどある。企業や行政のリーダーは自分のアンコンシャスバイアスを自覚してほしい。部下に対応する時、男性でも女性でも同じことを言うかと自らに問うてほしい。(50代女性・大学教員)

職場では「女性は結婚したら仕事を辞める」「仕事をセーブして子どもを産む」と思われていると感じる。企業経営者は女性の可能性を諦めないでほしい。頑張っていることを認めてほしい。私は将来に希望を持って生きたい。(30代女性・会社員)

女性自身が「家事をきんときこなさないといけない」「育児は父親に任せられない」という思い込みで自分を縛っている。この自願自縛を弱めないと、いくら制度がなくてもジェンダー平等は進まない。意思決定の場に女性を増やしたい。隠せず物が言えるよう、3人以上を同時に登用してほしい。(50代女性・会社員)



藤原加奈さん

株式会社フジワラテクノアート代表取締役副社長
岡山県ものづくり女性中央会会長

「多様な意見認める寛容性を」

女性が少ない業界ですが、働きがいや未来志向の職場づくりを進めた結果、性別関係なく多様な人材が活躍できる会社というブランディングができました。私自身も約10年前、事業承継の覚悟を決めた時、2人の子はまだ小さく、子育ても会社経営も中途半端で、自分が嫌になった時期もありました。しかし、子育ても社員教育も自立した人材の育成という共通点を見出し、私なりの考え方でやっていけばいいと思い前を向きました。多様な考えを受け入れる寛容性を持つことが大切です。



坂口有美子さん

株式会社ちゅうぎんフィナンシャルグループ執行役員D&I NEXT10推進部長

「強み軸に成果出す気概を」

地域限定総合職として、一般顧客対応が長く、経験不足との思いから、総合職への打診に尻込みしてしまいました。しかし、上司から3回、背中を押され決断。負荷のある難易度の高い役割を与えてもらったことで、ものの見方や見える景色が変わりました。会社側は期待を伝え、難易度の高い仕事をする機会を与え、報えるという姿勢。女性側は完璧じゃない自分を受け入れ、自分の強みを軸に成果を出すという気概が大切だと思います。



フォーラムの登壇者と参加者

フォーラムを終えて

小安美和さん

私が会社名に「Will(願い)」を付けたのは「〇〇したい」と誰もが素直に無邪気に言えて、実現できる社会を目指したいから。岡山はいま、性別や年齢にかかわらず、「〇〇したい」と言える「まち」になっていますか。そんな「まち」でなければ、女性や若者は戻ってきません。岡山では多様な分野の女性たちが連携し、ボトムアップで地域を変えようとしていて本当に素晴らしい。これからも岡山の取り組みに注目します。

山本満理子さん モデレーター

IPU・環太平洋大学地域連携センター副センター長、
経済経営学部現代経営学科特任准教授

今回のフォーラムを通じて見えてきた、今の岡山にあるものやないもの、素晴らしい企業の取り組みに明るい未来を感じた一方、「人権がない」「選択肢がない」という若いお二人の声は私たちの胸に突き刺さりました。「出て行かなくても出ていけないうちもいるんです」参加してくださった方からの言葉です。私たちはこのWePROを通して、つながることによって強くなりました。誰もが希望を持って暮らせる岡山を目指して、これからもより多くの皆さんとつながって、共に考え、共に行動していきたいと思っています。

那須保友さん 岡山大学学長

第1回WePROフォーラムを開催し、地域の企業や行政等関係者と共に女性活躍推進の重要性を深く認識しました。岡山大学は今後、より一層、地域社会との連携を強化し、学生・教職員に対して多様なキャリア支援やライフステージに応じた支援を提供していきます。また、地域の課題解決に向けた研究や社会貢献活動を進め、岡山が持続可能で活力に満ち、女性がいきいきと活躍する社会へと成長する一翼を担っていきます。

水田美由紀さん

弁護士、2025年度日本弁護士連合会副会長

「『幸福追求権』認め合おう」

意思決定の場にも多様な人たちが参加していることが重要です。そしてその人たちが身近に感じられる必要があります。地方の場合、高齢の男性が多い印象です。若い女性が話をしてみようと思うでしょうか。そういう意味でも女性が政治の場に参加することが求められます。よく耳にするウェルビーイングは、憲法13条にある「幸福追求権」と同じ意味かも。みんながそれぞれの幸福追求権を認め合えば、全ての人が伸び伸びと楽しく生きていけると 생각합니다。

セッション.2

「若い世代のリアルボイス」

横山浩花×澤田まりあ×水田美由紀



澤田まりあさん

生涯革命委員会、岡山大学生

「もっと若者の声を聞いて」

生涯革命委員会は2023年7月、岡山県内の公立高校(特別支援学校含む)計78校を対象に生理用品を置く実証実験を呼びかけました。参加したのは8校。生徒会にすら話が伝わらず、多くの学校が不参加を決めた結果です。高校時代、留学したカナダでは高校のトイレに生理用品が常備され、新校舎のトイレは、どのトイレに入ってもいいジェンダーニュートラル、その良い点、悪い点をみんなで話し合いました。もっと若者の声を聞いてほしいです。



横山浩花さん

「国連女性の地位委員会」にユース派遣者の1人と参加した

「声を上げ続けることが大切」

ジェンダー平等への理解を深めたいと、2024年3月、米ニューヨークの国連本部で開かれた「国連女性の地位委員会」へ参加。女性が人工妊娠中絶を選ぶ「自由」を世界で初めて憲法に明記したフランスでは、あらゆる人が議論し決めたということに衝撃を受けた。声を上げ続けることが大切だと実感しました。岡山にいても十分な知識と経験をえられる、多様な選択肢の中から、自ら選べる環境を整えていくことが求められています。